

特定非営利活動法人

日本小児循環器学会 理事会 (2021.8-2023.7)

2021 年度第 5 回 (最終) 理事会 議事録



1. 日時

2022 年 7 月 20 日 (水) 13:00~16:00

2. 場所

札幌コンベンションセンター 1F 108 会議室

3. 出席者

理事総数:20 名、出席理事:20 名

理事長: 山岸敬幸

副理事長: 坂本喜三郎

出席理事: 鮎沢衛、赤木禎治、岩本眞理、大内秀雄、小野博、笠原真悟、城戸佐知子、鈴木孝明、須田憲治、
瀧間浄宏、土井庄三郎、豊野学朋、中野俊秀、檜垣高史、深澤隆治、三浦大、三谷義英、山岸正明

出席監事: 河田政明、富田英、市田露子

出席幹事: 水野芳子、武田充人、早渕康信

欠席幹事: 落合由恵

4. 議長

理事長 山岸敬幸

5. 議事の経過の要領及びその結果

定刻となり定款第 26 条 3 項により山岸敬幸理事長が議長となり、開会を宣言した。議長より本理事会は定款第 27 条 2 項の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨の報告があった。議長より、本理事会の議事録署名人として須田憲治理事、瀧間浄宏理事が選任された。

6. 黙祷

名誉会員:小田禎一先生(福岡大学医学部)

特別会員:鯉江久昭先生(京都きづ川病院)、高橋良明先生(たかはし小児科循環器医院)

会員:川良武美先生(かわらハートクリニック)、藤原道雄先生(北信総合病院)

7. 前回議事録の確認(2021 年度第 4 回理事会)

2021 年度第 4 回理事会議事録の確認が行われた。

8. 審議事項(一部、議案関連事項についての懇談事項を含む)

第 1 号議案 :2021 年度決算案について(山岸理事長・城戸理事)

提案内容:城戸理事より 2021 年度決算案について、一般会計収支、専門医特別会計についての説明があった。

富田監事より会計監査報告が行われ、適正に運用されている旨報告された。

議決結果:全員一致で承認された。

第 2 号議案:2022 年度予算案について(山岸理事長・城戸理事)

提案内容:城戸理事より 2022 年度予算案についての説明があった。

議決結果:全員一致で承認された。

第 3 号議案: 2022 年度新規評議員について(山岸理事長・岩本理事)

提案内容:岩本理事より 20 名の新規評議員申請者についての説明があった。

議決結果:全員一致で承認された。

第 4 号議案: AHA/AEPC との短期交換留学事業について(三谷理事)

提案内容:2019 年度の短期留学候補が COVID-19 流行のため延期となっている。

今後も流動的であり、COVID-19 流行状況をみながら公募する旨が説明された。

議決結果:全員一致で承認された。

第 5 号議案: 多領域ミニカンファレンスのオンデマンド配信について(山岸正明理事)

提案内容:会員限定で講義のオンデマンド配信を実施したい。

議決結果:最も低額な経費の配信方法を検討する方針として、全員一致で承認された。

第 6 号議案:多領域評議員資格の業績について(山岸正明理事)

提案内容:多領域評議員資格申請のための業績(論文)について、小児循環器学領域限定では申請が難しく、他の領域を含めても可とする細則第9条(5)変更案が提示された。

議決結果:全員一致で承認された。

第 7 号議案: 第 13 期専門医試験の実施方法について(鮎沢理事)

提案内容:今年度(13 期)もコロナ対策のため、11、12 期と同様に会場を分散しての筆記試験、及びリモート面接で実施することが提案された。ポストコロナでは公平性の観点から 1 会場で Face to Face で行うことが理想的であり、本提案は特措であると説明された。

議決結果:全員一致で承認された。

第 8 号議案:地方会関連規則類の改定について(鮎沢理事)

第 9 号議案:地方会の認定について(鮎沢理事)

第 10 号議案:地方会の継続意向調査と再申請手続について(鮎沢理事)

提案内容:専門医制度の中に地方会委員会を設置し、日本小児循環器学会地方会制度規則、同地方会委員会細則、同地方会認定審査施行細則を現状に促して変更する旨、資料5に沿って説明された。認定更新申請されていない地方会が多数認められたが、COVID-19 禍で学会側からの更新案内が滞ったこと、開催が自粛されたこと、昨今の企業共催の中止などで学会・研究会自体が終了、もしくは合併などが理由だったため、各地方会の継続の意向を調査して、認定更新手続きを実施し、HP に掲載する。これまで発行されていた地方会の単位についてはすべて有効と認める。

議決結果:全員一致で承認された。

第 11 号議案: 専門医受験用申請書類・研修記録のクラウド化について(鮎沢理事)

提案内容:小児循環器専門医に研修手帳がない。記録システムと指導医による段階的評価について電子化・クラ

ウド化する方向性について担当委員会で議論があった。手術記録やサマリなどを pdf 化して保存することも検討する。

- ✓ クラウド化された研修手帳については個人管理にしなければ事務作業が増加する。
- ✓ 受験者・指導医にとって効率化の面でメリットがあるが、200 万円前後の予算が必要。

議決結果: 方向性は賛成だが、電子化のメリットについて具体化して理事会で再審議。

第 12 号議案: IF 獲得に向けた事務手続きに関する経費について(大内理事)

提案内容: IF 獲得に向けた調査を行う過程で生ずる事務的な手続きに対する報酬、PMC の審査料など費用について、必要な予算を組むことが提案された。

- ✓ IF 獲得には引用される論文だけを掲載し、引用されない論文を排除することが必要。
- ✓ 中国の雑誌では発刊後 2, 3 年は引用される欧米の invited paper のみを掲載して IF を取得している。
- ✓ 胸部外科学会雑誌では IF を獲得するために、annual report を論文化して掲載し、多く引用されるよう工夫した。
- ✓ 日本心エコー図学会でも編集社を Springer に変更し、編集委員や委員推薦による review 投稿の義務化など行っているが、5 年経過してもまだ IF 獲得はできていない。
- ✓ Pediatric Cardiology は症例報告を重視する方向となり IF 獲得を辞めている。
- ✓ 今後も担当委員会を中心に勉強会を開催していく。データベース、ガイドラインの論文化は IF 獲得に重要であり、分科会、各委員会に依頼する。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 13 号議案: 学校生活管理指導表において診療情報提供料 I を適用していく方向性について(檜垣理事)

提案内容: 小児慢性特定疾病受給対象児に必要な応じて「主治医から学校医等への情報提供」として、学校生活管理指導表を提供すると診療報酬として 250 点を請求できるようになった。小慢の申請を出すほうが負担が多いというご家族もいる。対象疾患であれば申請を出してなくても保険請求できればよいが(例: 難病外来指導管理料、小児科療養指導料)認められなかった。今後は小慢申請のメリットをいかに患者家族に伝えていくかという啓発も必要である。学校生活管理指導表は、学校への必要な情報提供として無料で始まっているが、医師が責任をもって書く診断書であり、本来は無料であるべきではないような書類であるが、自治体や学校単位でもその運用にばらつきがあるなど管理指導表そのものの価値や扱いが統一されておらず、現時点では表題の情報を学会の中で発信する。

議決結果: 診療情報提供料 I を適用していく方向性は全員一致で承認されたが、実際の運用については今後の議論が必要。関連する委員会で継続的に検討する。

第 14 号議案: 学術集会における心肺蘇生講習会に関する経費について(檜垣理事)

提案内容: 心肺蘇生講習会や標本展示などの企画は学術集会の運営になっているが、資金面で厳しくなっている。学会としてその経費の一部をサポートすることが提案された。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 15 号議案: 学会 HP のリニューアルについて(山岸理事長)

提案内容: 現在の HP がスマホ対応でないことも含め、HP の大規模なリニューアルが提案された。

議決結果: 全員一致で承認されたが、高額な経費がかかるので、見積もりを含めて具体的なリニューアル案について広報委員会で詳細検討のうえ、再度理事会審議とする。

9. 報告事項

・理事長報告（山岸理事長）

1. 持ち回り理事会報告(2021.8.1～現在)

以下の持ち回り理事会の報告があった。

- ・1号議案:ジゴシン製剤の継続供給に関する要望書についての議案が承認された。
- ・2号議案:心房中隔欠損閉鎖栓の適応追加に係る要望書についての議案が承認された。
- ・3号議案:学会と教育の連携委員会の人選について議案が承認された。
- ・4号議案:「Fontan手術後の先天性心疾患患者における血栓・塞栓形成の抑制」に関するバイエル社への協力について議案が承認された。
- ・5号議案:「日本重症患者ジェット機搬送ネットワーク(JCCN)」の設立について議案が承認された。
- ・6号議案:「高尾賞顕彰実施規約」の改定について議案が承認された。
- ・7号議案:「実物大 3D 心モデル対象疾患選定ワーキンググループ」の設置について議案が承認された。
- ・8号議案:功労賞について議案が承認された。

2. 要望書等提出状況

- ・ジゴシン製剤の継続供給に関する要望書
- ・心房中隔欠損閉鎖栓の適応追加に係る要望書(日本循環器学会他と合同)
- ・抗RSウイルスモノクローナル抗体製剤の使用に関する要望書(日本新生児成育医学会他と合同)

3. 学術集会会長報告

1. 第58回学術集会準備報告(土井庄三郎会長) 今回の学術集会の概要について説明された。
2. 第59回学術集会準備報告(鈴木孝明会長) 2023/7/6-8 横浜での開催について説明された。
3. 第60回学術集会準備報告(須田憲治会長) 2027/7/11-13 福岡での開催について説明された。

10. 閉会

以上をもって本日の議事を終了とし、議長から議事への協力に謝辞があり、閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人がこれに押印する。

2022年7月20日

議長

山岸 敬幸

議事録署名人

須田 憲治

議事録署名人

瀧間 浄宏

(以下余白)

(以上)